553.634(521.83)

岡山県王地鉱山調査速報

東元　定雄

要　旨

王地鉱山は岡山県都窪郡清音村下軽部にあり，伯備線清音駅より南方約 1 km で山元に達する。付近の地質は古生層・花崗岩・花崗斑岩等からなり，鉱床は花崗岩中，花崗斑岩中，および両者の境界の断層破砕帯にそつて胚胎している蛍石脈である。花崗岩と花崗斑岩との間にある鉱脈は走向 55～60°E，傾斜ほゞ垂直，脈幅平均 10 cm，脈平均品位 94 %である。それから 1.5 m離れた所にある平行脈は花崗斑岩中にあり，脈幅 2 ～ 3 cm，品位 23 % である。両脈の間の花崗斑岩は鉱染されて品位数%の鉱石になつている。このほか花崗岩中にも蛍石脈がみいだされるがいずれも脈幅細く品位が低い。

1. 位置および交通

王地鉱山は岡山県都窪郡清音村下軽部にあり，山陽本線倉敷駅の北西直距約 5 km の地点にある。山元から伯備線清音駅までは村道が通じ，この間約 1 km は三輪トラックを通ずる。

2. 鉱　区

鉱区番号	岡山県試登　5,914 号 昭和 34 年 4 月 18 日設定
鉱 種 名	蛍石
鉱業権者	岡山県吉備郡真備町箭田 127 三海政蔵

3. 地質および鉱床

鉱山付近には古生層と花崗岩・花崗斑岩とが分布している。古生層は主として粘板岩からなり，まれに輝緑凝灰岩を挾在する。古生層は花崗岩・花崗斑岩に貫入され，ホルンフェルス化している。花崗岩は中粒の山陽型黒雲母花崗岩である。花崗斑岩は花崗岩を貫く岩脈としてみられる。王地鉱山本坑では花崗岩と花崗斑岩とが断層関係をもつて接し，断層に細粒花崗岩が岩脈状に貫入していることがある。

蛍石鉱床は 2 カ所でみいだされている。そのうち本坑鉱床は露頭から約 6 m掘り下つて探鉱されている。本坑の第 1 脈は花崗岩と花崗斑岩との境界にそつて賦存しており，その走向は N 55～60°E，傾斜はほゞ垂直である。脈幅は平均 10 cm，最大 14 cm であり，品位は CaF_2 94 %である。第 2 脈は第 1 脈の奥約 1.5 mにあり，花崗斑岩中の断層破砕帯にそつて胚胎している。その走向傾斜は N 40°E，75°N であり，脈幅は 2 ～ 3 cm，品位23 %である。第 1 脈と第 2 脈との間の花崗斑岩は鉱染されており，品位数%である。

第 2 坑（第 2 露頭）鉱床は黒雲母花崗岩中の石英脈に少量の蛍石が伴われているもので，脈の走向傾斜はN 25°W，80～85°N，脈幅は平均 1 ～ 2 cm で品位数 % である。

4. 探　鉱

本坑鉱床では第 1 脈・第 2 脈の鏑先と下部を坑道探鉱するとともに，第 2 脈の奥の断層破砕帯を探鉱する必要がある。

第 2 坑は規模が小さく，探鉱による好結果は期待できない。

5. 今後の問題

本鉱山では，本坑においてかなり有望な蛍石鉱床に着鉱しているが，現状のままでは採鉱に着手することはむずかしいと思われるので，下部と横に坑道探鉱を行ない鉱床の規模を把握した後，本格的採掘を行なうかどうかを決定することが望ましい。

〔註〕 隣接地区には昭和 30 年第 488 号の出願鉱区がある。出願者はウラン鉱業(株)（京都市下京区四條通柳馬場角　日本信託ビル第 208 号），鉱種は金・銀・タングステン・ニッケル・蛍石・珪石・長石である。

試料分析表

場　所	種　類	CaF_2 (%)
本　坑	螢石脈（第 1 脈）	94.52
〃	〃　（第 2 脈）	23.55
〃	鉱染帯	2.28
第 2 坑	螢石一石英脈	3.40
本　坑	露頭粘土	0.21

（昭和 34 年 8 月調査）

* 広島駐在員事務所